

## 第 49 回野球部対抗競技大会各競技説明事項

### 100m

- ①通常は9名(9コース)同時に計測するが、レーンごとに計測が必要になるため、役員の数に合わせて同時に走る人数を調整しても良い。
- ②レーンごとにマネージャーが記録する。
- ③ストップウォッチを押せなかった時のために、2人ほど予備で計測しておく。
- ④スタートはクラウチングスタイルで統一する。スターティングブロックではなく、次走者による足の支えで対応する。

### 1500m

- ①同じ学校3名ずつ測定を行う。
- ②記録係を3名準備し、記録を聞いて報告する。(部員でもマネージャーでも良い)
- ③計測はストップウォッチのタイムを読み上げる。

### 1800mR

- ①第一走者のレーンは抽選で決めるが、スタートしたらすぐにオープンが良い。
- ②計測は自分がどの学校を担当するか決めておく。予備もいた方が良い。
- ③ゴール付近を動画で撮っておくと、競ったときにビデオ判定ができる。

### 立ち三段跳び

- ①計測前に1度練習を行わせる。
- ②3回連続試技を行い、記録の良いほうを報告する。
- ③両足を揃えて跳ぶようにする。勢いをつけて反動をつけてはいけない。反動付けた生徒に対しては注意を行い、もう1度試技をさせる。
- ④着地の際、スリップしてお尻がいたら記録なしにする。また、後ろに手がつく場合は記録を計測する。両手が前に着き、着地でかかとが浮いても戻ることができれば記録を計測する。後ろに手がついて両足が着いたまま上体を戻すことができれば記録を計測する。その際、後ろかかとを計測する。
- ⑤計測はタータンで行う。
- ⑥シューズでの試技を行う。
- ⑦本来は9名ずつ試技を行っているが、3名ずつでも良い。
- ⑧スリップして止まることができた場合、スリップした残っている後が確認できれば計測を行う。
- ⑨スタートラインの計測ラインは統一する。

### 遠投

- ①10mごとにラインを引いておくき、真ん中にメジャーを伸ばしておく。
- ②3名ずつ試技を行う。(スパイク可)
- ③真っすぐ投げるように声かけをするが、15m幅を外れても計測は行う。
- ④スタートラインを越えて投げるとファール。
- ⑤計測は落下地点に目印(ピンなど)を置き、メジャーを起点に行う。
- ⑥補助員は必ずヘルメットを着用し、ボールから目を離さないようにする。
- ⑦キャッチボールを行う場合、周りに十分注意させる。

### 塁間継投

- ①投げ始めのタイミング(リリースの瞬間)で計測を開始する。ストップウォッチ 3 個用意する。記録は 3 個のうち 2 個目(真ん中)の記録を報告する。3 個のうち 1 個の計測ミスが生じた場合は 2 個の間の平均タイムを報告する。
- ②ベースを踏めなかった場合は 0.5 秒加える。
- ③予備ボールは各塁に 2 個準備する。
- ④暴投したら、暴投した選手が予備ボールをとり試技を再継続する。捕球ミス及びファンブルをしてそのまま継続することも可能だが、そのベースを踏んでないとみなし 0.5 秒加える。捕球ミス及びファンブルしたら一度ベースに戻り、触塁してから再継続する。
- ⑤継投順番ミスは記録なしとなる。
- ⑥1チーム終了後、実施したチームが各塁周辺の整備を行う。
- ⑦役割→ストップウォッチ 3 名、各塁の空過確認 4 名、継投順番確認 1 名、余裕があれば受付担当もつける。
- ⑧事前練習は行わない。4 名が各塁に配置準備できたら試技を行う。練習は別の場所で行う。
- ⑨2 回実施中、良いタイムを報告する。
- ⑩各塁のベースの触塁確認は、審判のフォースアウト判定と同様に触塁確認を行う。わずかに足がベースより早く離れた場合は触塁したとみなさない。
- ⑪予備ボールがなくなり継続することができなければ記録なしとする。
- ⑫暴投したら、各塁の触塁を確認する担当が再スタートする場所をアドバイスしても良い。暴投した後、投げた先の塁から再スタートしたら記録なしとする。
- ⑬各塁の予備ボールを置く位置は、継投に邪魔にならない安全な位置に置いていれば各チームに任せる。

### 塁間走

- ①ベースをまたいでスタート。その際、体の向き(内側 or 外側)は問わない。
- ②計測(ストップウォッチ)は走者の動き始めに計測を開始する。
- ③計測は 3 名ずつ行う。
- ④ベース空過は 0.5 秒加える。
- ⑤1チーム(9 名)が走り終わったら走路を整備する。
- ⑥途中でつまずいても最後の塁間を 1 周終えるまでは、計測は継続する。
- ⑦試技は 1 人 1 本とする。

### 打撃

- ①通常 9 名並んで行うが、5 名と 4 名や 3 名ずつなどに分けても良い。
- ②打者の配置は、引っ張った打球がファールゾーンに飛ばないように、右打者・左打者を固めた方が良いが、会場に合わせて工夫する。
- ③ファールラインを少し外れても、計測できるのであれば計測する。
- ④計測は、落下地点にメジャーの 0 を合わせ、スタンドティーの位置で計測する。
- ⑤補助員は必ずヘルメットを着用し、ボールから目を離さないようにする。